

第15回戦略ワーキンググループ 議事要旨

日 時：平成30年12月3日（月）14時00分～14時45分

場 所：経済産業省 本館 17階 国際会議室

出席者

経済産業省：

村瀬電力・ガス事業部長、小澤資源エネルギー政策統括調整官、松野原子力政策課長、若月原子力立地・核燃料サイクル産業課長、武田原子力技術室長

文部科学省：

増子研究開発局審議官、清浦原子力課長、井出原子力課企画官

三菱重工業株式会社：

加藤事業部長、碓井 FBR 推進室長

電気事業連合会：

藤澤 FBR 委員会副委員長、渥美原子力部長

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構：

田口副理事長、青砥理事

議題

- 「戦略ロードマップ」骨子について

議事要旨

経済産業省 松野原子力政策課長より、資料1に沿って説明。その後、以下のような議論があった。

研究開発の進め方で3つのステップとのことで、最初の5年間で様々な技術を試すとあるが、様々な炉型の試し方、具体的な炉型のイメージがあればご教示いただきたい。

これから民間の創意工夫の下で様々な技術の提案があることを期待している。ここで敢えて具体的な炉型を特定することは控えたい。高速炉開発の意義も今回表明したので、その

意義に沿った、社会的に価値のある提案がされることを期待している。

現時点で経産省として具体的な炉型が複数でてくるイメージはあるのか。

おっしゃるとおり。マグウッド氏や個別事業者からのヒアリングでも様々な提案があった他、原子力委員会からも、様々な競争、創意工夫を引き出す取組をすべきと指摘があった。まずは民間の創意工夫を伴う取組に期待したい。

全体の方針として適切なものと認識。特に留意すべきは、柔軟性と多様性を重視すること、これまでの研究開発の成果を最大限生かすということ。これまでの多くの蓄積を有するナトリウム冷却高速炉、MOX燃料の技術を維持・発展させつつ、多様な概念に対応できる総合的な研究開発の推進、試験施設の整備を行っていききたい。適切な資源配分・投資が行われるような新しいシステムも必要。また国際協力も積極的に進めて、我が国の技術を国際標準化する取組を進めてまいりたい。

今回提示された骨子案は、これまでの関係者の議論を基に作り上げられたものと理解。これまで「常陽」や「もんじゅ」の開発で培った高速炉技術や人材といった国内資産を活用し、それを発展させ21世紀半ばには技術を見通すべく、着実に進めることが重要。そのために国際協力も活用し効率的に進めていくことが必要。あわせて国内外の様々な情勢の変化についての動向把握にも努め、開発に反映できる柔軟性を確保していくことが必要である。また、各ステークホルダーが密に連携し、引き続き高速炉開発会議の下、官民が連携した体制で議論が進められることが重要。社会・地元の理解を得るため、丁寧な説明も重要。

これまで我が国の高速炉開発に参画し、幅広く技術を蓄積してきた。最も技術的に成熟しているとされているナトリウム冷却高速炉を念頭に、イノベーションを取り入れた幅広い検討も行い国際協力も活用しながら、今後も技術と人材で貢献していきたい。また高速炉開発は長期にわたるため、開発を継続できるよう、適切な規模の財政支援や、開発に対するインセンティブが得られる国の制度措置が必要。

以上

お問合せ先

資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 原子力政策課

電話：03-3501-1991

FAX：03-3580-8447